

【高校英文法】 分詞（１）

●分詞（１）のポイント

▼ 1 動詞 + ~ing の全体像（分詞と分詞構文の意味）

▼ 2 分詞のバリエーション

▼ 1 動詞 + ~ing の全体像（分詞と分詞構文の意味）

分詞とは・・・

〈全体像〉

【「to 不定詞の３つの用法」】

- ① _____
- ② _____
- ③ _____

【「動詞 + ~ing の３つの用法」】

- ① _____
- ② _____
- ③ _____

◆ ~ing の３つの用法（例文）

①名詞的用法＝動名詞（文の _____ or _____ or _____ になる。）

Playing baseball is fun. 「野球をすることは楽しい。」

He likes **traveling** in Japan. 「彼は日本旅行が好きだ。」

My hobby is **snowboarding**. 「私の趣味はスノーボードだ。」

②形容詞的用法＝動形容詞 → 分詞（文の _____ or _____ になる。）

Someone is in that **burning** house! 「誰かがその燃えている家の中にいるぞ！」

Who is the girl **walking** on her hands in the park? 「公園で逆立ちして歩いているあの少女は誰だ。」

③副詞的用法＝動副詞 → 分詞構文（文の要素にならない、**名詞以外を修飾**！）

he suddenly started to pee **standing** up. 「突然彼は立ちションをし始めた。」

◆分詞の「ポジション」と「意味」

分詞 1 語だけなら「名詞の前から修飾」

他の語句がくつつくとき（2 語以上）は「名詞の後ろから修飾」

Q. 思考力問題 次の語句を分詞の意味に気をつけて日本語にせよ。

1. a falling leaf 「() →) 」
2. a fallen leaf 「() →) 」

▼2 分詞のバリエーション

☆☆☆ 分詞は形容詞扱い = 文の _____ or _____ になる。 ←これが全て！

① SVC 型とセット

He **kept saying** that he loved me. 「彼は私のことを愛していると言いつけた。」

His eyes **remain closed**. 「彼の目は（閉じられたままだ→）閉じたままだ。」

② SVOC 型とセット

He **kept** me **waiting** for forty minutes. 「彼は私を 40 分間待たせた。」

We usually **keep** the window **locked**. 「私たちはたいていその窓のカギはかけておく。」

③ 使役動詞 (have / get / make) とセット

The comedian **had** the people **laughing**. 「そのコメディアンは人々を笑わせていた。」

He **got** the machine **working**. 「彼はその機械を動かした。」

Have your essay **finished** by tomorrow! 「作文を明日までに書き上げてしまいなさい。」

I **got** my fingers **caught** in the train doors. 「私は電車のドアに指を挟まれた。」

☆ make oneself understand = 自分の意思を伝える make oneself heard = 自分の声を聞かせる

④ 知覚動詞とセット

We **saw** a bird **building** a nest. 「私たちは鳥が巣を作っているのを見た。」

I **saw** a little girl **scolded** by her mother. 「僕は小さな女の子が母親に叱られるのを見た。」

【高校英文法】 分詞（２）

- ▼ 1 分詞構文の核とバリエーション
- ▼ 2 付帯状況の with
- ▼ 3 分詞構文の慣用表現

▼ 1 分詞構文の核とバリエーション

分詞構文とは・・・

◆分詞構文に書き換える３ステップ！

- ① 接続語を消す
- ② 主語も消す（主節の S と同じ場合）
- ③ 動詞を分詞に変える

書き換えパターン 1（基本）

As he saw me, he ran away.

↓ ↓ ↓

○ ○ **Seeing** me, he ran away.

①接続語 **as** を消す。②主語 **he** を消す。③**saw** を **seeing** にする。

書き換えパターン 2（否定文）

As he did not know what to say, he kept silent.

↓ ↓ ↓

○ ○ **Not knowing** what to say, he kept silent.

①接続語 **as** を消す。②主語 **he** を消す。③否定文なので **not** を文頭に置き、**know** を **knowing** にする。

書き換えパターン 3（受動態）

Since ~~this book~~ is written in English, this book is easy to understand.

↓ ↓ ↓

○ ○ **Being written** in English, this book is easy to understand.

①接続語 **since** を消す。②主語 **this book** を消す。③**is** を **being** にする。

書き換えパターン4（主節とSが違う）

Because it was Sunday, the shops were all closed.

↓ ↓ ↓

○ **It being** Sunday, the shops were all closed.

①接続語 **because** を消す。②主語は主節と違うのでそのまま！③**was** を **being** にする。

書き換えパターン5（時制が違う）

Because it had rained that night, we could not observe the moon.

↓ ↓ ↓

○ **It having rained** that night, we could not observe the moon.

①接続語 **because** を消す。②主語は主節と違うのでそのまま。③時制が以前なので **having** をつける。

◆分詞構文の種類と訳し方

① SV の前にある場合： -ing ~, SV. 適当に訳す

② SV の間にある場合： S, -ing ~, V. 適当に訳す

③ SV の後にある場合： SV, -ing ~. 「そして～」か「～しながら」

適当に訳す、とは「**て**」や「**で**」で文をつなげるとカンタン♪

（「～**して**、**SV** **だ**。」や「～**で**、**SV** **だ**。」など）

②、③パターン：情報の付け足し＝補足説明として使われる。

The little boy, **screaming and kicking**, was dragged out of the shop by his mother.

「その男の子は、叫んだりジタバタ**しながら**、母親に店の外へ引きずりだされた。」

I've spent all morning, **cleaning my room** to welcome the new year.

「僕は新年を迎えるために部屋掃除を**しながら**午前中を過ごした。」

A huge hurricane hit the city, **causing untold destruction**.

「巨大なハリケーンが街を襲い、**そして**莫大な破壊をもたらした。」

▼ 2 付帯状況の with

付帯状況の with とは・・・「with + 名詞 + 分詞（形容詞・副詞・前置詞）」のセットで補足説明をするときに使う。このとき代名詞は分詞の意味上の主語になる。

① 「with + 名詞 + 分詞」パターン

He was sitting in the chair **with his eyes closed**. 「彼は目を閉じたままイスに座っていた。」

He got out of the car **with the engine running**. 「彼はエンジンをかけたまま車から出た。」

② 「with + 名詞 + 形容詞 or 副詞 or 前置詞」パターン

Some people sleep **with their eyes open**. 「目を開けたまま眠る人もいる。」

He apologized for his mistake **with tears in his eyes**. 「彼は目に涙を浮かべて自分の間違いを謝罪した。」

She was standing **with her coat on**. 「彼女はコートを着て立っていた。」

【文化から斬り込む英語表現】

西欧の人々からすると、心身二元論は根強い。つまり、心（精神）と身体は別であり、心が身体を支配しているという考えがある。だから身体について表すときは受け身の表現を使うんやで。

▼ 3 分詞構文の慣用表現

◆ 分詞構文の慣用表現

分詞構文の慣用表現①

judging from ~	～から判断すると	generally speaking	一般的に言えば
compared with[to] ~	～と比べると	strictly speaking	厳密に言えば
taking ~ into consideration	～を考慮すると	speaking of ~ talking of ~	～と言えば
frankly speaking	率直に言えば	given ~	～を考慮すると

分詞構文の慣用表現②（意味上の S があるもの）

all things considered = considering all things	全てを考慮すると	such being the case	そういうわけで
other things being equal	他の条件が同じならば	weather permitting	天気がよければ

分詞構文の慣用表現③（「前置詞」として考えて OK なもの）

according to ~	~によれば	including ~	~を含めて
concerning ~ regarding ~	~に関して	owing to ~	~が原因で

=====

【発展】分詞構文のネイティブ感覚

分詞構文は**文と文をつなぐ**ために使われるから訳すときも「適当に」訳すのがいい。その目的は、

- (1) **語数の短縮**
- (2) **臨場感の演出**
- (3) **情報追加＝補足説明**

(1)は限られた語数で書かないといけない**新聞や論文**などで大活躍する。逆にいうと**話し言葉ではあまり使われへんで**。(2)として、分詞構文は**小説や物語でもよく使われる**。それは「**ぼんやりさせることで臨場感を生み出すから**」なんや。いちいち「なぜなら」とか「~のとき」みたいな接続語を使っていたら感情移入できひんよな。例えば、

- 1 「後ろから何か物音が聞こえてきた**ので**、振り返ってみると、黒づくめの男が立っていた。」
- 2 「後ろから何か物音が聞こえて**て**、振り返ってみると、黒づくめの男が立っていた。」

どっちが臨場感ある話に聞こえるやろ？ なっ、そういうことやね。(3)は**大人の文章テクニク**として使われる。例えば、いちいち「When I played ~ he ~ but I ~」って文をダラダラ続けると幼稚な文に聞こえるんよな。日本語でも同じで「私は~しました、そして~をしました。次に~をしました、でも~でした。」みたいな文やったら小学生っぽい文やなって思われちゃうよね。だから分詞構文を使って文をギュギュっと引き締めてあげると大人な文になるからかっこよくなるで。